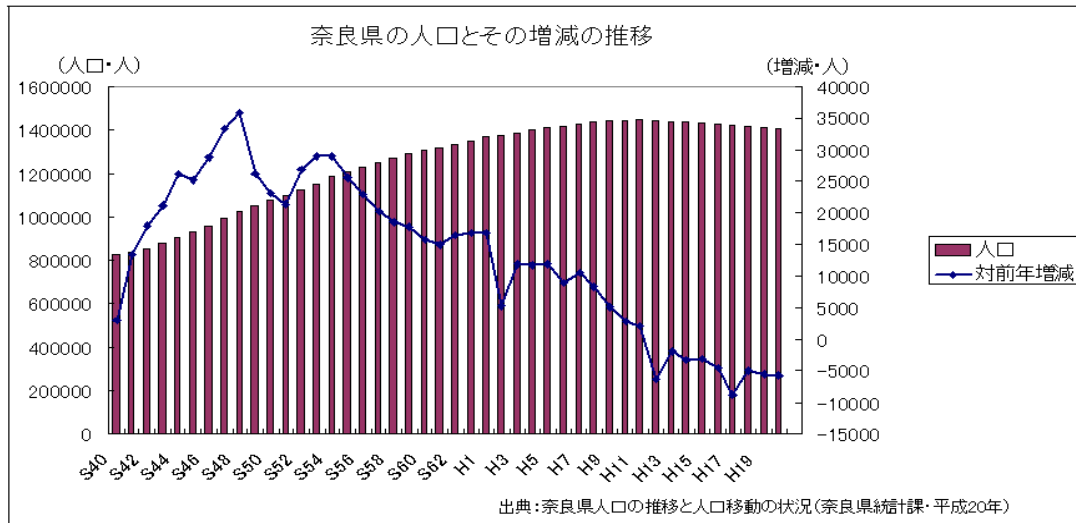


Ⅱ 奈良県の高齢化の特徴

奈良県の高齢化の特徴

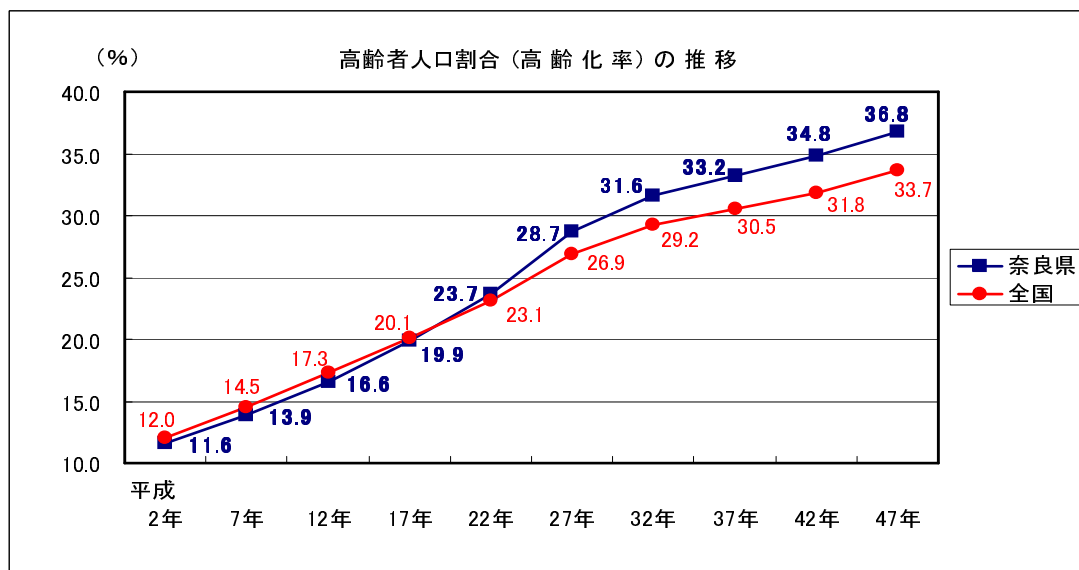
1 ベッドタウンとして転入してきた層を中心に高齢化が進む。

奈良県は、昭和 40 年代頃から大阪や京都のベッドタウンとして発展してきました。団塊の世代を核としたベッドタウンに転入してきた世代がこれから一斉に高齢期を迎えます。



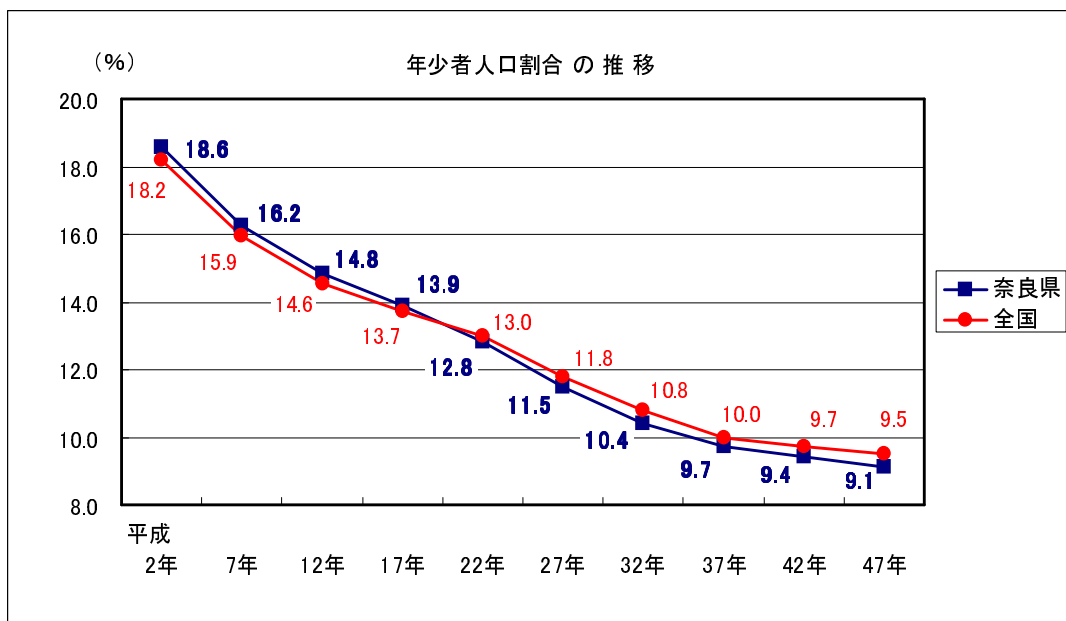
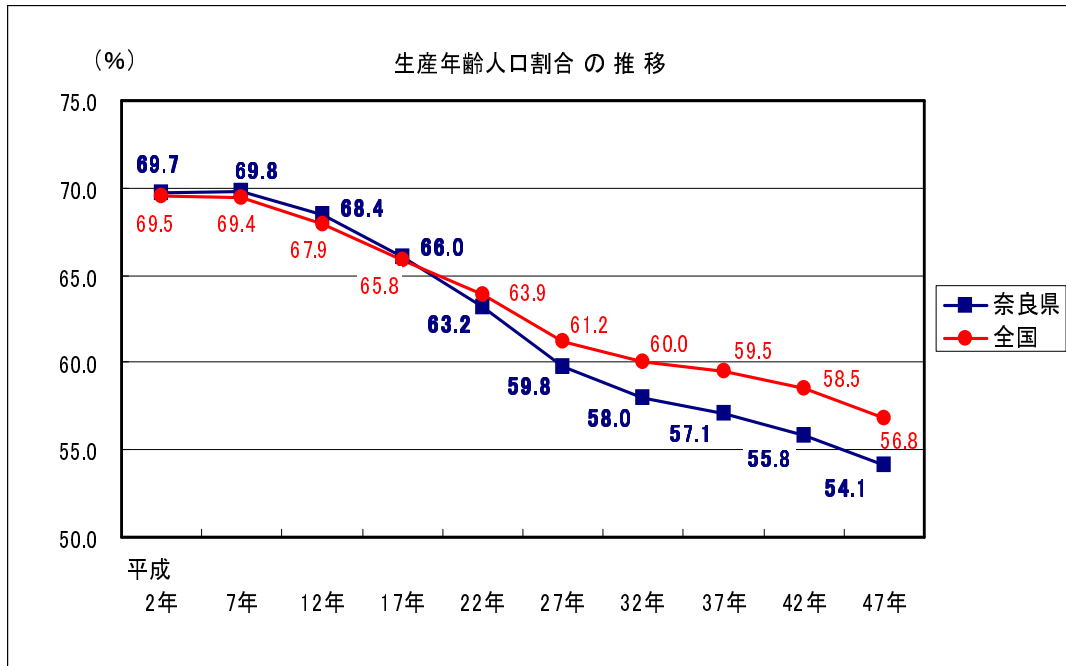
2 高齢化率が全国平均よりもこれまでは低く、今後は高くなる。

奈良県の高齢化率は、これまで全国平均より低い状態が続いてきましたが、平成 20 年に肩を並べ、平成 21 年には逆転しました。今後は、奈良県の高齢化率が全国平均を上回る状態が続く見込みです。



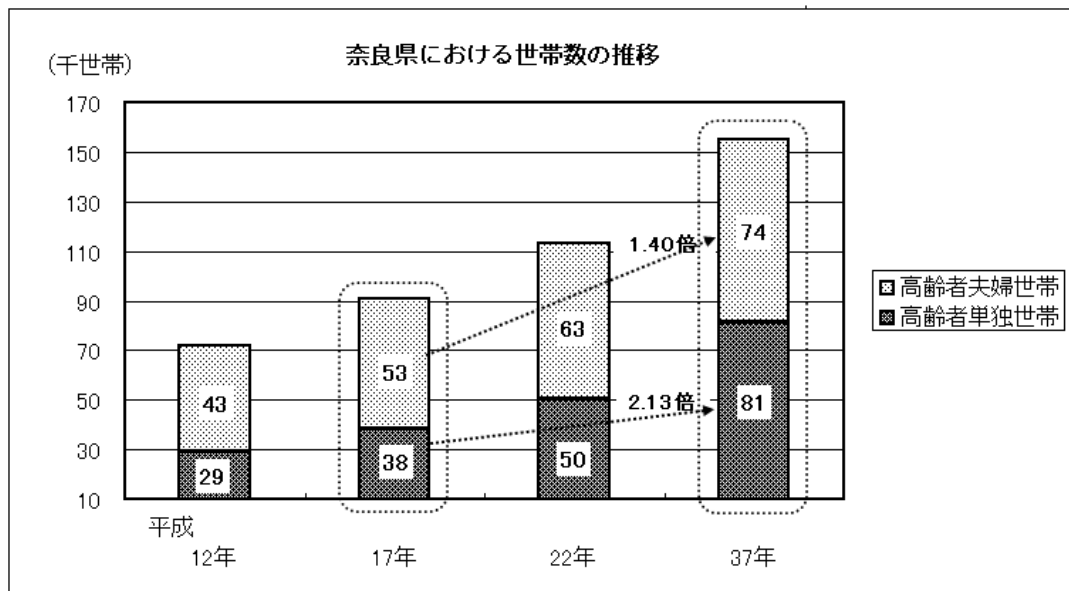
3 年少者人口よりも生産年齢人口の方が全国平均よりも減少する。

高齢化率の上昇に相反して、年少者人口と生産年齢人口の全人口に占める割合は低下しますが、奈良県においては、年少者人口よりも生産年齢人口の方がより大きく減少していく見込みです。



4 高齢者人口の増加とともに、高齢者の1人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯が増える。

平成17年を基準にみると、20年後（平成37年）には、高齢者単独世帯は2.13倍、高齢者夫婦世帯は1.40倍となる見込みです。



5 平野部、ニュータウン、中山間・山間地域など生活環境など特性が異なる地域がある。

奈良県には、旧市街地、平野部の住宅と田畑が混在する地域、ニュータウン、中山間・山間地域などの地域があり、異なる特性を有しています。

出典：高齢者人口（65歳以上）

平成2 - 17年 国勢調査

平成22年 第4期介護保険事業支援計画における推計

平成27 - 47年 『日本の都道府県別将来推計人口』

（平成19年5月推計・国立社会保障・人口問題研究所）

生産年齢人口（15歳-64歳）・年少者人口（14歳以下）

平成2 - 17年 国勢調査

平成22 - 47年 日本の都道府県別将来推計人口

（平成19年5月推計／国立社会保障・人口問題研究所）

高齢者単独世帯・高齢者夫婦世帯

日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）

（平成17年8月推計／国立社会保障・人口問題研究所）

